



新館住友ビル 昭和47年撮影

www.sumitomo-rd.co.jp

未来を語れる、街創りをしよう

ビジネスや住まい、オフィス街に住宅街。私たち住友不動産は、

人と場所を紡ぐ環境創りが仕事です。そこには、ビジネスでもプライベートでも豊かな未来への展望があるはずです。

オフィスビル、マンション、ハウジングそして不動産仲介。

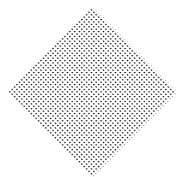
私たちは4つの近くて異なるコンテンツをリンクさせながら、未来を語れる街創りをお手伝いしていきます。

あなたと未来を語りたい。住友不動産です。



住友不動産

Sumitomo Realty & Development Co., Ltd.



力強く回復する

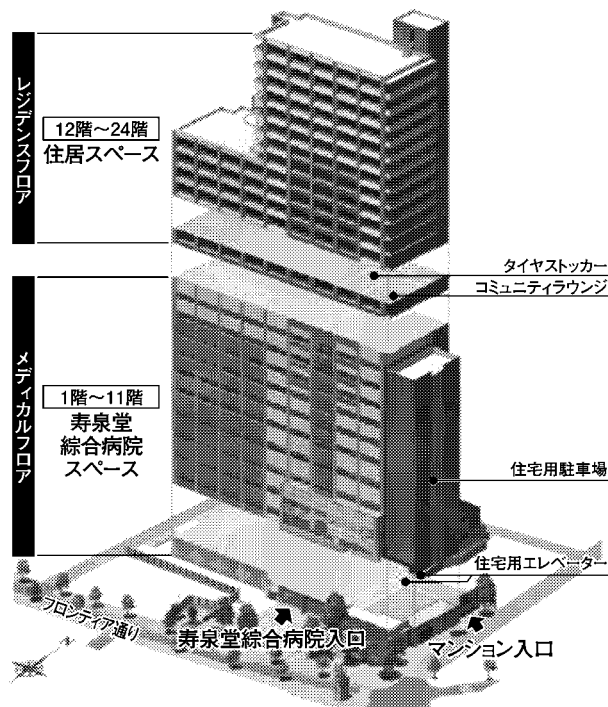
環境性能 重要課題に 省エネ技術採用進む

居住者に利便性を提供する商品企画と合わせて重要性を増しているのが、マンションの環境性能だ。家庭部門からの二酸化炭素(CO₂)排出量が増え続ける中、環境に配慮したマンションの提供は各社共通の課題。太陽光発電システムや断熱性能の高いLow Eガラス、電気自動車(EV)用充電器の導入が進んでいる。

三菱地所が10年11月に完成した「パークハウス吉祥寺OIKOS」(東京都武蔵野市、総戸数9戸)は環境技術の実験室とも言えるマンションだ。前田建設工業が開発した「パークハウス」を吹き込み放射冷暖房効果を生み出す空調システムを業界初採用したほか、外断熱工法、太陽熱利用給湯、太陽光発電、発光ダイオード照明など

数々の省エネ技術を導入。これにより1戸当たり年間1・3tのCO₂排出量を削減し、電力消費も大幅に削減した。太陽光発電システムのマンションへの普及が拡大する中で、マンションに蓄電池を搭載する試みも始まっている。マンションでは昼間に住民がいないため、発電した余剰電力を蓄電池にためて、住民が帰ってくる夜間や災害時の電力に利用する仕組みだ。伊藤忠都市開発は3月、業界初の蓄電池搭載マンション「クレヴィア三子玉川」(東京都世田谷区、総戸数51戸)を完成。電気自動車(EV)用リチウムイオン蓄電池を応用し、夜間の共用部電力に活用する。これにより1戸当たりの月間電気料金が約1200円削減できる。EV用電池を応用しているのは、将来のEV普及を見据えている。EVが普及すれば劣化した蓄電池のリサイクル需要が生まれ、安価でマンション用蓄電池が製造できるからだ。

三井不動産レジデンシャルは12年3月に完成する「パークシティ国分寺」(東京都国分寺市、総戸数331戸)に蓄電池を導入する。三菱重工の開発した次世代リチウムイオン蓄電池システムを採用。夜間や悪候時の活用に加え、災害時には給水ポンプやエレベーターなどを動かす防災用電力として運用する。今後完成するほかの大規模マンションへの導入も検討する。



住友不動産の「シティータワー郡山」概要図。マンションと総合病院の一体化を実現し、高齢者層の人気を集めた

アジアへの進出が顕著

高品質なマンション展開

こうした不動産各社の高品質なマンション作りは海外からも評価が高い。近年では不動産会社の海外展開も加速している。有望なのは高成長を



技術を現地マンション開発に生かしている。ほかにも大連市での「大連ソフトラパーク」計画にも参画が決まるなど、アジア各国のタイベロツパと連携し積極的な事業展開を進めている。

三菱地所は10年秋にベトナムでのマンション開発事業に参入。ホーチミン市で962戸のマンション・商業複合施設に着工したほか、ハノイ市でも4棟のマンションを建設する。5月には上海に駐在事務所を開設し、中国での事業も展開している。

三菱地所がベトナムで進めるホーチミン市プロジェクトの完成予想図。962戸のマンションと商業施設を建設予定



名前は知ってる。だけど、何をしている会社なのか、よく分からない…。そこでワタクシ桜庭ななみ、自分の目で三菱地所を確かめてきました！出会ったのは、みんなをドキドキ、ワクワクさせるものばかり。過去と未来をつなぐ街。やがて子どもたちの「ふるさと」になる場所。新しい何かが始まる予感にあふれた広場… そうか。街をつくることって、笑顔とか、発見とか、人と人とのつながりをつくることだったんだ！ ➡ まずは、webで見に行こう。miniikou.jp

人を、想う力。街を、想う力。三菱地所グループ